

図書館だより

今月の新刊を紹介します。

問 タルイピアセンター ☎23-3746 FAX 23-3745

開館時間：午前10時～午後6時

休館日：2/3(月)・10(月)・17(月)・25(火)・27(木)

臨時休館日：蔵書点検 2/18(火)～21(金)

とっとここびと

(新井悦子、岩崎書店)



おはようからおやすみまで、「とっとここびと」たちは何度も、ちいちゃんのところへやってきて、お世話をします。子どもの周りにいる大人たちの指をこびとに見立てた、親子でスキンシップを楽しめる絵本。

いまは、ここがぼくたちの家

(バルバラ・ガヴリルワ、彩流社)



戦争がはじまり、ウクライナから隣国ポーランドに避難した一家の実話。子どもの視線で戦争と避難の体験を伝え、日本にもいる難民をどう受け入れるのかを考えるきっかけとなる絵本。

ニッポンの総理大臣図鑑

(Gakken)



初代・伊藤博文から、第103代・石破茂まで。歴代日本の総理大臣を、似顔絵付きでわかりやすく解説。田中角栄、小泉純一郎など、重要総理はマンガも掲載。近現代史の学習、入試の時事問題対策に最適。

冬と瓦礫

(砂原浩太郎、集英社)



1995年、阪神・淡路大震災が発生。上京して働く青年は、早朝の知らせに愕然とした。家族や友人が住む神戸で、自分にできることはあるのか。自身の体験をもとに描く長篇小説。

お知らせ

- ▶テーマ展示「あなたは犬派？猫派？」「ちいさなえほん」
- ▶絵本のよみかせ会 毎週土曜日 午後2時から
- ▶2/11(火)～2/16(日)限定 貸出冊数20冊、貸出期間3週間
- ▶図書館利用の際には、マイバッグをお持ちください。
- ▶読みたい本が図書館にない場合は、リクエストサービスが利用できます。

入館者数と貸出冊数

R6.12月	入館者数	5,276人
	貸出冊数	12,564冊

紹介文：TRC MARC

歴史探訪

町史跡 南大塚古墳

南大塚古墳は昭和43年(1968)に道路工事の土取りによって石室が露出した古墳です。名古屋大学により緊急調査が実施され、墳丘には貼石状の葺石が確認され、横穴式石室からは、須恵器、土師器、鉄鏃や馬具などが出土しました。このときの墳丘や石室の調査図面は昭和44年(1969)に発行された『垂井町史』に掲載されており、7世紀の大型方墳として評価されています。



▲南大塚古墳

令和4年(2022)から名古屋大学が町と連携して行っている古代の不破郡に関する総合的研究で、南大塚古墳の最新の機器による再度の測量調査を行いました。その結果、二段築成の方墳で、一辺約25m、高さ6mとなり、古墳の築造時期は、出土した土器などから7世紀前半と考えられます。横穴式石室は前庭部と呼ばれるこの地域独自の構造をもち、全長15.5mとなる美濃最大級の規模を誇ります。以上の特徴から、町を代表する古墳として令和6年12月24日付けで垂井町史跡に指定を受けました。

『垂井町史』通史編・史料編

タルイピアセンター、役場会計窓口、文化会館で販売中 各4,000円